



平成 19 年 9 月期中間(連結・単独)業績予想との差異  
及び通期(連結・単独)業績予想の修正について

平成 19 年 5 月 21 日

会 社 名 太陽毛糸紡績株式会社  
コード番号 3211  
本社所在地 埼玉県川口市上青木 5-5-9  
問い合わせ先 責任者役職名 管理本部長  
氏 名 山 中 庸

グリーンシート銘柄 フェニックス  
URL <http://www.taiyo-keito.co.jp/>  
TEL(048)265-2414

平成 19 年 9 月期(平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)の業績予想について、平成 18 年 11 月 22 日付当社「平成 18 年 9 月期決算短信(連結)」及び同日付当社「平成 18 年 9 月期個別財務諸表の概要」並びに平成 19 年 1 月 31 日付当社「平成 19 年 9 月期第 1 四半期財務・業績の概況(連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 平成 19 年 9 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	630	△25	△48
今 回 修 正 (B)	706	△40	△73
増 減 額 (B-A)	76	△15	△25
増 減 率	12.1%	60.0%	52.1%

(2) 修正理由

今中間期における売上高は、今冬の記録的な暖冬ならびにそれに引き続く春先の天候不順の影響を受けるなど依然として厳しい経営環境の中、当社グループは経営効率を図ると共に商品戦略や営業体制を整備した結果、原糸・編織物等製品売上が予想を上回りました。その結果、売上高は 706 百万円(当初予想比:76 百万円の増加)となる見込みであります。

経常利益につきましては、売上高の増加はありましたものの営業利益の減少により、40 百万円の損失(当初予想比:15 百万円の損失増加)となる見込みであります。

中間純利益につきましては、長期滞留棚卸資産の評価損として 32 百万円(当初予想:25 百万円)を計上したことから、73 百万円の損失(当初予想比:25 百万円の損失増加)となる見込みであります。

(3) 通期（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,900	63	32
今回修正 (B)	1,850	52	21
増減額 (B-A)	△50	△11	△11
増減率	△2.6%	△17.5%	△34.4%

(4) 修正理由

売上高につきましては、今後の日本経済が、米国経済の減速懸念、原油価格の動向、金利上昇への懸念および個人消費の動向等、先行き不安材料も払拭出来ない状況の中、通期予想といたしまして 1,850 百万円(当初予想比:50 百万円の減少)を見込んでおります。

経常利益及び当期純利益につきましても、上記理由により、経常利益 52 百万円(当初予想比:11 百万円の減少)、当期純利益 21 百万円(当初予想比:11 百万円の減少)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	当期純利益
中間期 (17/10～18/3)	652	△33	△31
通期 (17/10～18/9)	2,059	42	14

2. 平成 19 年 9 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	売上高	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	590	△20	△45
今回修正 (B)	675	△27	△73
増減額 (B-A)	85	△7	△28
増減率	14.4%	35.0%	62.2%

(2) 修正理由

今中間期における売上高は、今冬の記録的な暖冬ならびにそれに引き続く春先の天候不順の影響を受けるなど依然として厳しい経営環境の中、当社グループは経営効率を図ると共に商品戦略や営業体制を整備した結果、原糸・編織物等製品売上が予想を上回りました。その結果、売上高は 675 百万円(当初予想比:85 百万円の増加)となる見込みであります。

経常利益につきましては、売上高の増加はありましたものの営業利益の減少により、27 百万円の損失(当初予想比:7 百万円の損失増加)となる見込みであります。

中間純利益につきましては、長期滞留棚卸資産の評価損 32 百万円(当初予想:25 百

万円)、関係会社出資金の評価損 12 百万円を計上したことから、73 百万円の損失(当初予想比:28 百万円の損失増加)となる見込みであります。

(3) 通期 (平成 18 年 10 月 1 日～平成 19 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 予 想 (A)	1,820	60	30
今 回 修 正 (B)	1,780	50	20
増 減 額 (B-A)	△40	△10	△10
増 減 率	△2.2%	△16.7%	△33.3%

(4) 修正理由

売上高につきましては、今後の日本経済が、米国経済の減速懸念、原油価格の動向、金利上昇への懸念および個人消費の動向等で先行き不安材料も払拭出来ない状況の中、通期予想といたしまして 1,780 百万円(当初予想比:40 百万円の減少)を見込んでおります。

経常利益及び当期純利益につきましても、上記理由により、経常利益 50 百万円(当初予想比:10 百万円の減少)、当期純利益 20 百万円(当初予想比:10 百万円の減少)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績(平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
中間期 (17/10～18/3)	613	△16	△14
通 期 (17/10～18/9)	1,981	37	9

以 上